

解 題

- 〔文 書 名〕 横尾健一家文書
〔史料点数〕 2,035点
〔文書番号〕 寄贈文書109
〔所 在 地〕 宇都宮市塙田1-1-20 栃木県立文書館
〔関係地〕 鹿沼市くちあわの口栗野（旧栃木県上都賀郡栗野村）

〔概 要〕

横尾健一家文書2,035点のうちの5分の1にあたる約400点が近世文書である。横尾家が所在する鹿沼市口栗野は、栗野川と粕尾川の合流地に当たり、農業の外に木材の集散や各種交易で賑わう旧栗野村の中心地であった。文政10年（1827）には221軒中48軒が農間商いを営んでおり（栗野町史）、横尾家も叶屋の屋号を用いて荒物業を営み、代々年寄役を勤める村内の有力農家であった。文書の多くは借金証文と請取であるが、中に旗本水野家と名主高野甚五兵衛や同茂助との関係を示す年貢皆済目録や物成請取等の文書が相当数含まれている。高野家は横尾家と深い姻戚関係にあり、その結果これらの文書が横尾家に伝えられたと考えられるがその詳細は不明である。

文書の大部分は、明治・大正期に県政界で活躍した横尾輝吉に関するものである。横尾輝吉は安政2年（1855）鹿沼町の角田善平の三男として生まれた。幼くして伯父横尾輝吉の養嗣子となり、養父の死後その名を襲名した。明治15年（1882）、27歳で県会議員に当選し、その後国政にも進出して明治35年（1902）、明治45年（1912）、大正4年（1915）の三度衆議院議員となった。その間、明治25年（1892）には県会副議長、明治27年（1894）・明治44年（1911）には議長に就任するなど県政界の重鎮、また栃木県立憲改進黨勢力の中心となって活躍した。予算審議の議案書、県会日誌、県会成議録等明治10年代から大正期に及ぶ史料が当時の県議会での活動を示している。また、足尾鉍毒事件に際しては知事の推薦で仲裁委員となり、銅山主と被害民の間に立ってその仲介に当たっており、「谷中問題之解決談」外20数点の史料がある。横尾輝吉は勸業諮問委員、教育諮問委員、徴兵参事員、地方衛生委員、所得税調査委員等の各種委員を歴任しており、その関係から、「栃木県農商工報告」「上都賀農会報」「徴兵事務協議録」や養蚕関係の史料等を残しているが、特に教育関係が豊富である。「下野私立教育会雑誌」は欠落はあるものの第1号から「下野教育」と改題して後の312号までが収集されており、貴重である。また、「学事年報」や師範学校、中学校、高等女学校関係の教育予算書や学校要覧も存在する。実業家としての史料には、鹿沼銀行や栗野銀行、下野製麻や帝国製麻会社、栗野醸造会社等の営業報告等があり、都賀鉄道や野岩越鉄道の敷設に尽力した様子もその敷設請願等に見る事が出来る。